

受検番号	
------	--

社 会

注 意

- 1 開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答は、全て解答用紙に記入しなさい。
- 3 解答を選択肢から選ぶ問題は、記号で書きなさい。
- 4 問題用紙は、冊子の形になっています。
- 5 問題は、表紙の裏を1ページとし、6ページまであります。開始の合図で問題用紙の各ページを確認し、始めなさい。
- 6 問題用紙の表紙と解答用紙の受検番号欄に、それぞれ受検番号を記入しなさい。

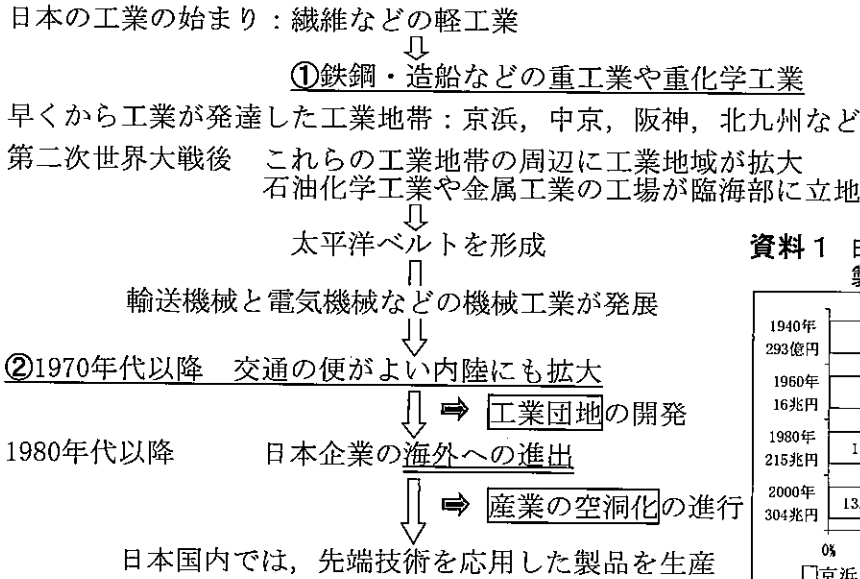
1

太郎さんは、社会科の学習で、「日本の工業の変化と特色」について学習することになり、調べたことをノートにまとめました。後の1から6までの各問いに答えなさい。

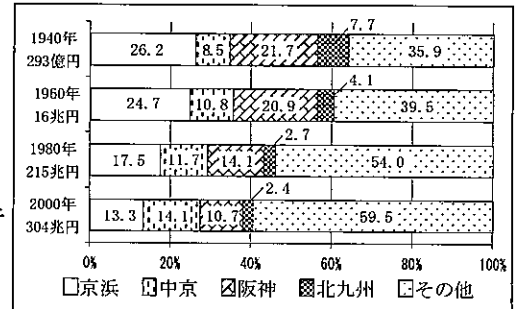
ノート

日本の工業の変化と特色

めあて 日本の工業の変化と特色について、調べたことをもとにまとめる
学習の方法 ・資料や調べたことをもとに考える ・国際関係の中で考える
調べたこと



資料1 日本のおもな工業地帯・工業地域別製造品出荷額の割合



〔数字でみる日本の100年〕より作成

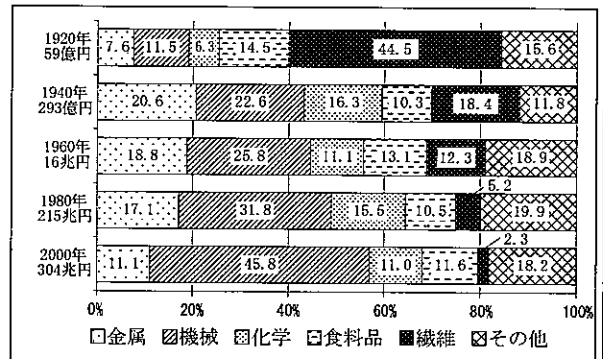
クラスで話し合うテーマ

・多くの日本企業が海外に生産工場を移すようになった理由

まとめ

振り返り

資料2 日本の製造品出荷額の構成

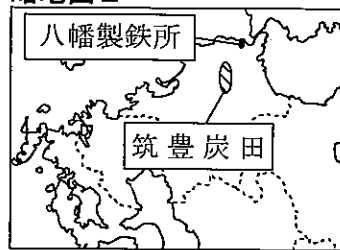


〔日本国勢図会2015/16〕「数字でみる日本の100年」より作成

略地図1



略地図2



資料3 八幡製鉄所で使用された

鉄鉱石の産出場所と量 (単位：トン)

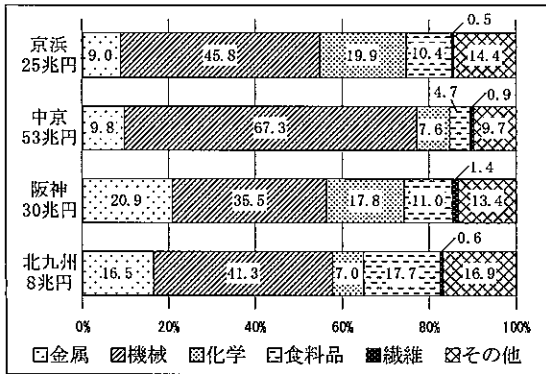
	1901年	1905年
日本国内	17,056	4,468
タイエ鉄山 (中国)	27,023	120,903
朝鮮半島	375	19,541
合計	44,454	144,912

〔佐藤昌一郎著「官営八幡製鉄所の研究」より作成〕

- 日本の工業は、かつて原料の多くを輸入し、工業製品を輸出することを中心に展開されてきた。このような貿易のことを何というか。書きなさい。
- 下線部①について、明治時代になり石炭と鉄鉱石などを原料とする製鉄の必要性が高まり、1901年、現在の北九州市に八幡製鉄所がつくられ、重工業化が始まった。北九州市につくられた理由を、略地図1, 2, 資料3を参考にして書きなさい。

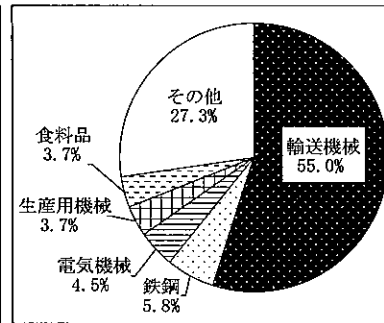
3 太郎さんは新たに資料4, 5をみつけ、資料6のようにまとめた。中京工業地帯の特色について、資料1と資料4から資料6までを参考にして、80字以上、100字以内で書きなさい。

資料4 おもな工業地帯・工業地域別
製造品出荷額の構成(2013年)



〔日本国勢図会2015/16〕より作成

資料5 愛知県の製造品出荷額の構成(2013年 42兆円)



〔愛知県資料〕より作成

資料6 中京工業地帯について
調べた内容

中京工業地帯の製造品出荷額の約8割を愛知県が占めている。

自動車工場の周辺には、たくさんの関連工場、下請け工場が集まっている。

鉄鋼や石油化学などの工業が発達。

4 下線部②にあるように、1970年代以降、日本の工業地域は内陸部へ広がっていった。その要因について、ノートを参考にして書きなさい。

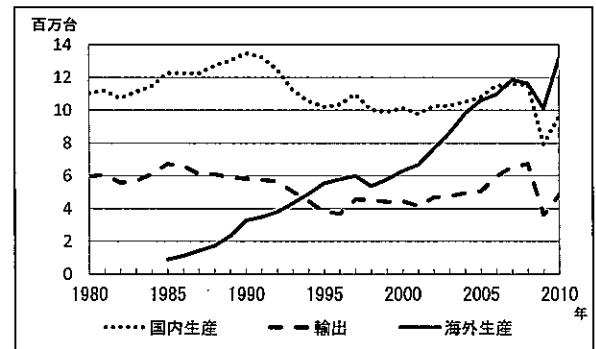
5 日本の工業の変化について、正しく説明しているものを、ノート、資料1, 2を参考にして、次のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 日本の工業は、繊維などの軽工業から始まった。1960年と1980年を比較すると、繊維の製造品出荷額とその割合は、ともに減少していることがわかる。
- イ 早くから工業が発達した工業地帯は、現在も日本の工業の中心的存在である。2000年の製造品出荷額の割合は、京浜・中京・阪神・北九州をあわせると5割を超えている。
- ウ 重化学工業の製造品出荷額の割合について、1980年と2000年を比較すると、機械の割合だけが増加し、2000年は4割を超えている。
- エ 1960年の阪神工業地帯は、日本の製造品出荷額の割合のおおよそ5分の1を占めていた。しかし、2000年の製造品出荷額の割合は減少し、5%に満たなくなった。

6 太郎さんは社会科の授業で資料7, 8を見ながら、日本の企業が海外に生産工場を移すようになった理由についてグループで話し合った。資料9はその時に言われたおもな意見である。

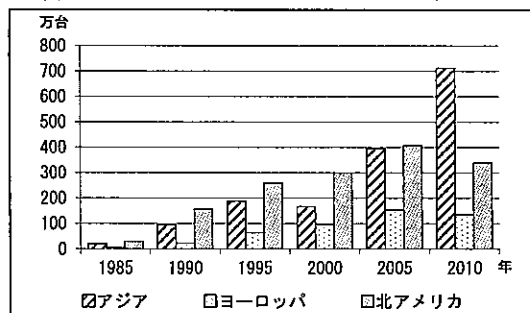
太郎さんはノートの「まとめ」に日本の企業がアジアや北アメリカに生産工場を移した背景について書くことにした。資料7から資料9までを参考にして、アジアの場合と北アメリカの場合について、それぞれ書きなさい。

資料7 日本の自動車の生産台数と輸出台数の推移



〔数字でみる日本の100年〕より作成

資料8 国内自動車会社の海外生産台数



〔日本国勢図会2005/06〕「日本国勢図会2015/16」より作成

資料9 話し合いで出されたおもな意見

- ・1980年代後半、円高が進行したところから自動車の輸出が減少した。
- ・海外で生産される自動車の台数が、国内で生産される台数を上回るようになった。
- ・日本とアメリカ合衆国の貿易で、貿易赤字の大きかったアメリカ合衆国から批判があったことと、日本企業のアメリカ合衆国への進出は関係している。
- ・安い賃金の労働力を求めて海外へ進出した。
- ・新しい市場としての期待が高まった。
- ・2000年以降、アジアでの自動車の生産台数が急増している。

2

春男さんは、社会の授業で学習した江戸時代のまとめとして、「江戸時代の農民の暮らしと政治改革」というテーマで、**略年表**を作成し、資料を集め、ノートに整理することにしました。後の1から6までの各問いに答えなさい。

略年表

年	おもなできごと
1603	徳川家康が征夷大將軍に任じられる
1615	武家諸法度・・・[資料1]
1643	田畑の売買の禁止・・・[資料2]
1716	享保の改革(～1745)
1732	享保のききん
1772	田沼意次の政治(～1786)
1782	天明のききん ○百姓一揆・打ちこわしの増大
1787	寛政の改革(～1793) ○工場制手工業がこの頃始まる
1833	天保のききん ○百姓一揆・打ちこわしの増大
1841	天保の改革(～1843)
1867	大政奉還

資料1 武家諸法度

- 一 学問と武道は常に心がけて励むべきである。
- 一 諸国の城は、修理をするときでも幕府に届け出ること。
- 一 幕府の許可なく結婚してはならない。

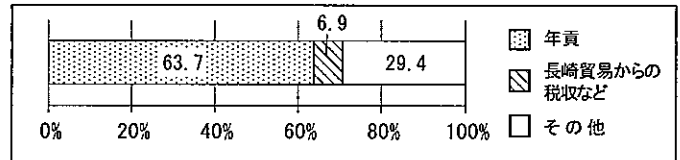
【徳川禁令考より一部要約】

資料2 田畑永代売買禁止令

資産のある百姓は、田地を買いとり、いよいよ豊かになり、家計の苦しい者は、田畑を売却して、いよいよ家計が苦しくなるので、今後田畑の売買は禁止する。

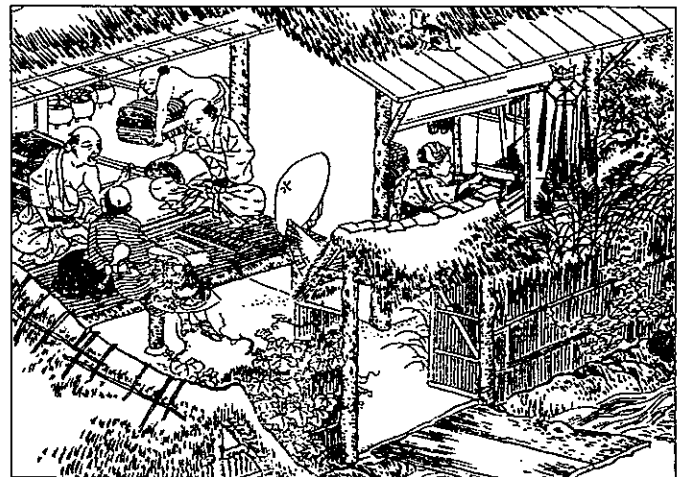
【御触書寛保集成より一部要約】

資料3 江戸時代中期の幕府の収入

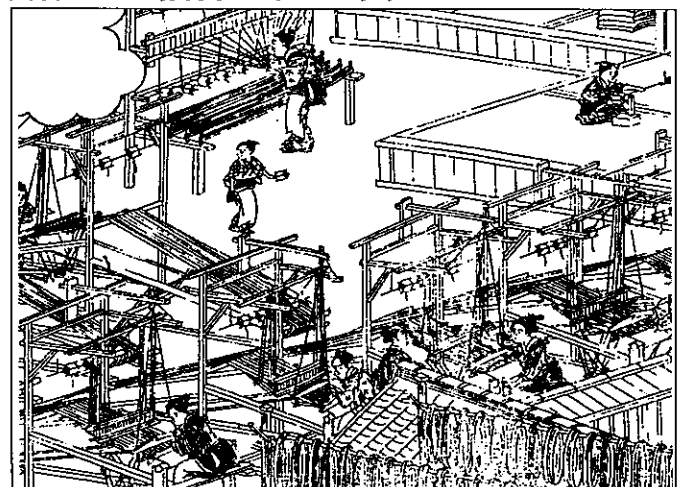


【岩波講座日本歴史より作成】

資料4 問屋制家内工業のようす



資料5 工場制手工業のようす



- 1 資料1の武家諸法度を幕府が定めた目的は何か。次のアからエまでのの中から1つ選びなさい。
- ア 天皇や公家の統制 イ 大名の統制
ウ 寺社の統制 エ 町人の統制
- 2 資料2のように、幕府は農民に対し、田畑の売買を禁止した。幕府がこのような禁止令を出したねらいは何か。資料3を参考にして書きなさい。
- 3 江戸時代の農民について、正しく説明しているものを、次のアからエまでのの中から1つ選びなさい。
- ア 農民は、荘園領主に年貢を納めていたが、地頭がおかれた荘園では地頭の支配も受けた。
イ 農地をもつ本百姓のなかから、庄屋（名主）や百姓代が選ばれた。
ウ 農民は、戸籍にもとづき口分田が与えられ、税を納めた。
エ 地主がもつ小作地を政府が強制的に買い上げ、小作人に安く売りわたした。
- 4 江戸時代は、農業や様々な産業が発達し、交通網が整備され、貨幣も広く使われるようになった。江戸時代の社会や経済のようすについて、最も適切に表しているものを、次のアからエまでのの中から1つ選びなさい。
- ア 九十九里浜では、大規模ないわし漁が行われ、肥料に加工された。主に関東地方に売られ、多くは米づくりの肥料として使われた。
イ 幕府は、商人や大名にも貨幣の発行権を与え、金貨・銀貨をつくらせて、全国に流通させた。都市には、金と銀との両替や金貸しによって、富を蓄える者も現れた。
ウ 農業の発達にともなって、備中ぐわなどの農具や肥料を購入するなど、農民の間でも貨幣が使われるようになった。
エ 京都を中心に、五街道が整えられ、参勤交代の大名や、手紙や小荷物を運ぶ飛脚が行きかい、箱根などには関所がおかれた。
- 5 農村では綿などを商品作物として栽培するようになり、19世紀頃になると織物の生産のしくみが、問屋制家内工業から工場制手工業にかわった。どのようにかわったのか。資料4、5の働いている人のようすを参考にして書きなさい。
- 6 春男さんは、江戸時代の財政の立て直しに関連した政治改革を以下のような付せんにまとめた。田沼意次の政治の特徴は、他の3つの改革と違うところがある。その違いについて、春男さんがまとめた付せんを参考にして、「年貢」「商工業者」という言葉を使って説明しなさい。

春男さんがまとめた付せん

[享保の改革]
・ 倭約をすすめる。
・ 新田開発をすすめる。
・ 豊作不作に関係なく一定の年貢を納めさせる。

[田沼意次の政治]
・ 株仲間を認める。
・ 長崎貿易を活発にする。
・ 蝦夷地の開拓にのりだす。

[寛政の改革]
・ 倭約をすすめる。
・ 江戸などに出てきていた農民を故郷に帰す。
・ 旗本や御家人の、商人からの借金を帳消しにする。

[天保の改革]
・ 倭約をすすめる。
・ 株仲間を解散させる。
・ 江戸などに出てきていた農民を故郷に帰す。

3

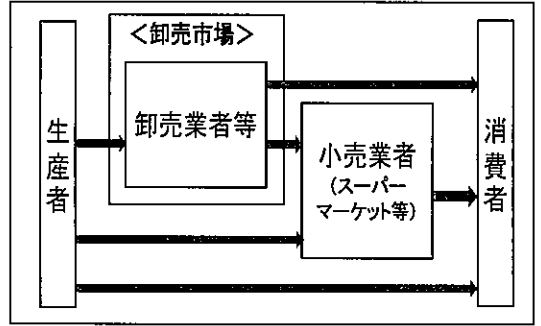
知子さんたちのグループは、「私たちのくらしと経済」について学習しています。下の会話文と知子さんのノートを見て、後の1から6までの各問いに答えなさい。

知子さん：職場体験でお世話になったスーパーマーケットでは、レタスなど同じ商品でも月や日によって価格に違いがあったよね。
 健二さん：お店によっても、同じ商品でも価格が違うことがあるのかな。
 静香さん：価格はどのようにして決まるのだろう。
 知子さん：価格の決定に関係しそうな資料を集めてノートにまとめてみるよ。

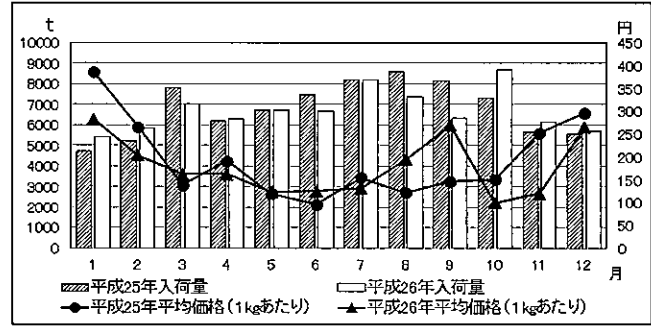
知子さんのノート

テーマ：価格はどのように決まるのか
 <集めた資料>

資料1 農産物の生産から消費までの流れ

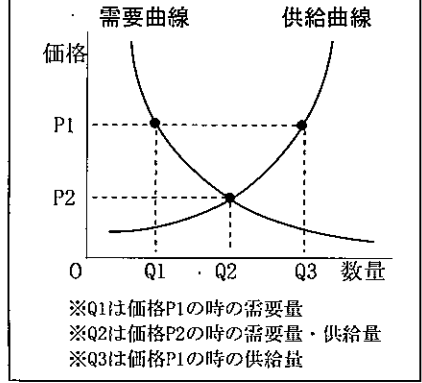


資料2 レタスの入荷量と平均価格の推移

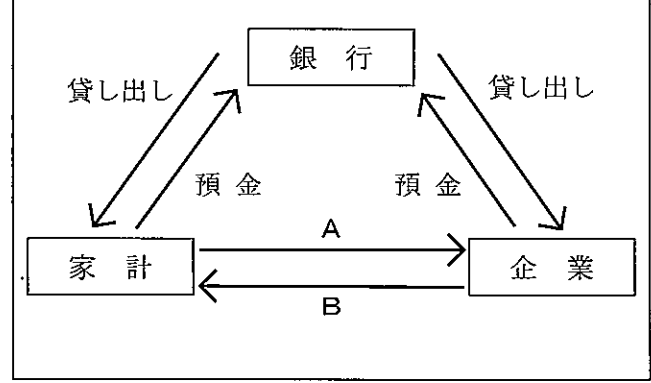


〔「東京都中央卸売市場・市場統計情報」より作成〕

資料3 需要と供給と価格の関係



資料4 家計と企業と銀行の関係



<資料1～4から分かったこと>

- ①資料1：商品が生産者から消費者に渡るまでの間には、さまざまな流れがある。
- ②資料2：レタスの入荷量と価格には関係がありそうだ。
- ③資料3：価格の決まり方には需要量と供給量が関係していそうだ。
- ④資料4：銀行への預金が家計や企業に貸し出されて経済活動を支えている。

<さらに深めたいこと>

- なぜ店や入荷量，需要量・供給量によって価格が変わるのか。
- 変化する価格やいろいろな商品に対する情報のなかで，商品を購入する際に心がけなければならないことは何か。

1 資料1について、農産物等の商品が生産者から消費者に届くまでの流れを何と呼んでいるか。最も当てはまるものを、次のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア 資本 イ 流通 ウ 開発 エ 配当

2 資料2は、東京都中央卸売市場における平成25年と平成26年のレタスの月ごとの入荷量と平均価格の推移を示している。なぜ、平成26年は、8月から10月にかけての月ごとのレタスの平均価格がこのように推移したと考えられるか。平成25年と比較して、資料2から分かることを書きなさい。

3 資料3を使って、供給する側が当初設定した価格であるP1から均衡価格であるP2に決まっていくなりに関して、需要と供給の関係から説明しなさい。

4 生産者どうして相談をして価格を下げない取り決めを行うことなどを禁じた法律が、1947年に制定された。この法律を何というか。書きなさい。

5 資料4のA、Bそれぞれの矢印に当てはまる経済活動を、次のアからオまでの中からすべて選びなさい。

ア 労働 イ サービス ウ 賃金 エ 税金 オ 代金

6 知子さんたちは、消費者としての適切な行動について話し合うことになった。商品を購入した時に失敗した経験の話を出し合い、下のようにまとめた。知子さんのノートのくさらに深めたいことと下のく出された発言を参考にして、「消費者として商品を購入する際にどのようなことを心がける必要があるのか」について、契約という観点から「自由」「責任」という言葉を使って書きなさい。

<出された発言>

定価より安くなっていた洋服を思わず買ってしまっただが、流行が変わったのでほとんど着ていない。

インターネットで商品を購入したが、注文した商品と違う物が届いて、返品することになった。

社会人の姉がクレジットカードで洋服やバッグを買いすぎて、給料のほとんどを支払いにあてたと聞いた。

宣伝を見て、あるゲームソフトを購入したが、実際やってみるとそれ程おもしろくなく、すぐに飽きてやらなくなった。